

## 第4章 高等学校の研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本研究委員会では、総合的な学習の時間のカリキュラム改善の方策を探るとともに、研究協力校においてその具体的な実践を行っていただいた。

第1章では、カリキュラム改善の根本的概念としての自己の在り方生き方の位置付けからPDSIサイクルの考え方について述べることができた。さらに、計画カリキュラム作成の流れと評価の主体と対象を明らかにするとともに、本研究委員会でのカリキュラム改善の方針を示すことができた。第2章では、カリキュラム評価の具体的な実施へ向けて、具体的な学習活動を基にしたカリキュラム改善の手順を示すことができた。そして、カリキュラム改善をするための構成要素については総合的な学習の時間の目標設定の段階から、評価の観点・評価規準・評価手段についてまで、様々な角度から見直せるよう多くの点検項目の例を示した。第3章では、2校の研究協力校の実践事例（海外修学旅行による国際理解、進路を考えた「先輩に学ぶ」）を通して、生徒や教職員のアンケート調査などにより、具体的な実施カリキュラムの評価とそれに基づいた改善について述べることができた。

高等学校における総合的な学習の時間は、小・中学校に比べて先行事例が少ないこともあり、本格実施に当たってのカリキュラムづくりはこれからの課題であるという学校が少なくない。しかし、カリキュラム評価とその改善を念頭においたカリキュラムづくりは、学校が時代の変化に対応する上で有効にはたらくのではないかと考える。

高等学校での総合的な学習の時間の活動内容は、小・中学校の内容をより発展させた活動内容になるよう工夫することが必要である。高等学校にふさわしい総合的な学習の時間となるためには学習内容の一部をとらえて、深化させ、その学習を通して自分の将来の在り方生き方へつなぐことができるようにすることが大切だと考える。現在、多くの高校生は、主体的に進路を決められないという傾向がある、そのためにも自分は何に興味、関心があるのか、自分が何をしたいか、自分が将来どういう方向に進めばよいのかを十分に考えさせる時間が大切ではないだろうか。

このような高校生の現状実態を考えたとき、「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が示されている総合的な学習の時間の創設の意義は大きい。この総合的な学習の時間の意義を理解した上でカリキュラム開発を行い、そのカリキュラムを多面的・多角的に評価・改善することが必要である。このことが現代社会をよりたくましく、心豊かに生きる生徒を育成し高等学校の役割である社会的アイデンティティの確立と社会への出口としての機能が十分に果たされると言える。本研究が高等学校の総合的な学習の時間の今後の取組に向けての指針になることが出来れば幸いである。

### 2 今後の課題

今回は、県立高等学校2校による実践を基に、「具体的な学習活動」を中心とし、特に「活動の場」「授業者」「生徒」「学習内容」及び「評価の観点」「評価規準」「評価手段」といった項目の関連に基づいたカリキュラムの評価と改善について研究を進めてきた。これから高等学校において総合的な学習の時間が実施されるに伴い、総合的な学習の時間のテーマも進路、福祉、環境、国際理解など多種多様になってくるため、それに対する具体的なカリキュラム評価の在り方を探っていかなければならない。特に高等学校においては「思考力」「判断力」「表現力」を身に付けさせる具体的方法を探るとともに、教師や生徒以外の「教育行政機関」「学校評議員」「保護者」「地域の人」「協力者（ゲストティーチャーなど）」などの評価を積極的に又は的確に取り入れたカリキュラム評価を更に検討する必要があると考える。